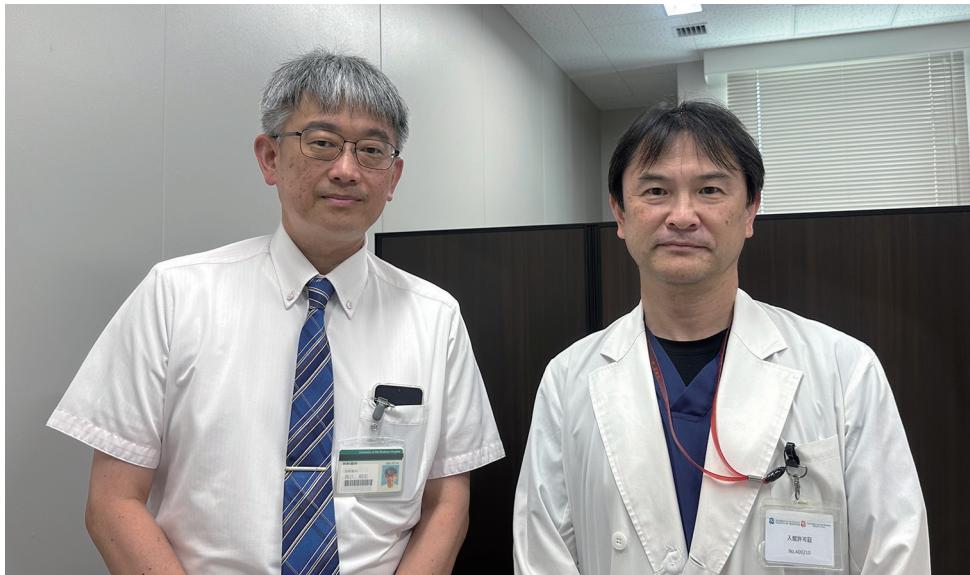


琉球大学大学院医学系研究科・腎泌尿器外科学講座 教授 猪口淳一 先生



西江先生> 猪口先生は、2024年4月から琉球大学大学院医学系研究科・腎泌尿器外科学講座教授にご就任されております。遅ればせながら誠におめでとうございます。

ご就任される以前を振り返って、医師としてどのようなご経験をされてきましたでしょうか。

猪口先生> ありがとうございます。我々の世代の研修医の時はローテーションがなかった時代だったので、私は九州大学の泌尿器科に直で入局をしました。他の病院に1年、2年目は大学で、3年目は原三信病院で勤務しました。

それ以降は、実はずっと大学にいました。大学院や、留学していた2年間以外はずっと九州大学泌尿器科で手術に研究にいろいろさせていただいて、初めて外に出たというような感じです。

西江先生> ちょっと外の病院で勤務したかったなという気持ちはありましたか？

猪口先生> それほどはなかったんですよね。大きなシビアな手術がしたかったので、そういう意味では大学にいて手術したかったというのもありました。

西江先生> なるほど。先生のやりたいことはマッチしていたということでしょうか。

猪口先生> そうですね。

西江先生> 泌尿器が関係する臓器はたくさんあるかと思いますが、先生のご専門を教えて下さい。

猪口先生> 泌尿器がん全般で腫瘍学が主です。手術に関しては、腹腔鏡手術からロボット手術といった低侵襲手術が専門ですね。

西江先生> 低侵襲手術やロボット手術と言われましたけど、どのように習得されたか教えてください。

猪口先生> ロボット支援手術の中で、本邦で最初に承認されたのは前立腺全摘除術でしたが、前立腺全摘除術が保険承認になる前に4大学の泌尿器科で先進医療を行っておりました。

その先進医療を行っていた施設の1つが九州大学です。先進医療の頃から、その手術に加わってきました。

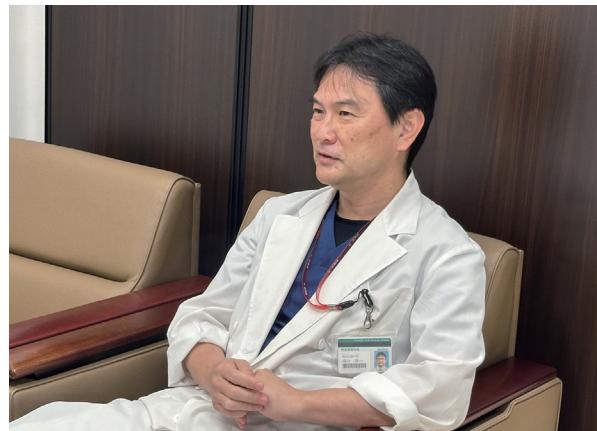
九州大学では、それ以外のほとんどの手術も大体やってきた感じですね。

西江先生> そうなんですね。猪口先生、研究はどのようなことをされてきましたでしょうか。

猪口先生> 研究は結構色々してきたのですが、カリフォルニア大学のアーバイン校に留学してまして、その時は前立腺の発がんに関する研究を行いました。この頃は基礎的な研究をやっていましたが、帰国後は臨床研究が主で、特に尿路上皮がんに関する研究をやってきました。膀胱がんと腎盂尿管がんの研究が中心で、全国的なコホートスタディーを事務局としてさせていただきました。

その後、尿路上皮がんの早期発見に向けて、新しい尿中バイオマーカーの開発をしてきました。もう少しで上市できるかというところまでできていますが、九州大学と共に最後の一押しを頑張っているところです。

西江先生> なるほどですね。わかりました。実は猪口先生と私は同じ大学で長く一緒に仕事をしていた仲ですね（笑）。



猪口先生> 改まって喋るのがむず痒い感じがします。

西江先生> 私の研究もずっとサポートしていただいて、実はたくさん論文で一緒に名前が公表されています。少し変な感じがしますね。

続いて、実際に沖縄に来られて1年4か月が経過しましたが、勤務や生活など慣れられましたでしょうか。

猪口先生> そうですね、慣れてはきましたけど、まだまだ慣れないところもいっぱいありますよね。特に生活ですね。単身なので自炊が大変ですね。基本、夕食は家で作っていますね。

西江先生> すごいですね。どんなものを作られますか。

猪口先生> 簡単な炒め物から鍋物とか、少し簡単な揚げ物ぐらいです。あまり手の込んだものは、もちろんできません（笑）。

西江先生> あと、気候は九州と違うところがあると思いますが、どうですか。

猪口先生> 最初、湿度はびっくりしましたね。除湿機と冷房をずっとつけっぱなしで、その感覚はこれまでなかったですね。

ただ、特に冬の厳しい寒さがないので、過ごしやすい良い土地ですよね。

西江先生> 確かにですね。あとは、こちらで仕事始められて、旧病院と新病院どちらでも働かれて、まだ1年以上経っていない状況だと思うのですが、いかがですか？

猪口先生> 新病院になって、気持ちがいいですよ。外来はちょっと狭くなり、少し不具合はありますけど、少しずつ修正してやっています。病棟、手術室がとても広くなったので、だいぶ変わってきましたね。

あとは、4月になってメンバーも変わって、医局員も少しずつ増やして、活気ある教室にしていきたいですね。

西江先生> ありがとうございます。この1年4か月で、先生が赴任前に思い浮かべていたことと異なる点もあるかと思いますが、猪口先生が今後目指す講座運営の方針についてお聞かせください。

猪口先生> 教室の中に関しては、泌尿器は、かなり人数的に厳しい時代がずっと続いている、最近ようやく少しずつ増えてきたところです。前教授からもなかなか研究にまで手が出せなかったという話を聞いていたので、十分動き出しているではないですが、しっかりと研究ができる程度の人材を確保したいですよね。大学だけじゃなくて、沖縄全体で泌尿器科医が全然足りていません。

実は、専門医をとった後に沖縄に短期で来ませんかという泌尿器科専門医の短期留学制度というものを勝手に立ち上げました。宣伝はしていますがまだ応募はなく、大学を敬遠する方には関連病院に斡旋しながら、沖縄の泌尿器科を支える人であればウェルカムという感じで行っていますが、まだ実を結んではいないですね。

そういうところから進めていこうと思っています。



西江先生> なるほど、斬新なアイデアですね。続いて、貴講座において特に力を入れている研究・活動があればお聞かせ下さい。

猪口先生> 活動に関しては、泌尿器科はマイナー外科なので、やっぱり手術がしっかりできる人材を育てたいなと思っております。そのためには、それなりに手術の数がないといけないですし、あとは低侵襲手術、特にロボット手術は積極的に術式を広げてやっていきたいなと思って、今行っています。

研究に関しても、少しずつではありますが、基礎的な研究も含めて始めていきたいと思っています。実際に大学院生がいるので、しっかり自らの手を動かして、研究に没頭してもらいたいと思いますし、短期で大学院生が終わるようにならなければ、研究をし、卒業してもらいたいなとは思っています。

西江先生> 分かりました。放射線科が関与する部分で、もしあ手伝いできるところがあれば、ぜひ仰っていただきたいと思います。

少しプライベートなお話になりますが、ご趣味はありますでしょうか。

猪口先生> 趣味はスポーツで、するのも見るのも好きですね。大学の時はサッカーをしていて、九州にいる時は家の近所のおじさん達とサッカーをしていましたが、45歳からはテニスを始めました。こっちに来て最近はやっ

ていないのですが、そろそろなにかしたいなと思っています。最近は見るばっかりという感じですね。

あとは、お酒ですね。

西江先生> こちらに来て、美味しいなと思うお酒はありますか。

猪口先生> 結構なんでも好きなんですね。泡盛も好きですし、色んなものを飲んでいますね。

西江先生> なるほどですね。良いお店もたくさん開拓していただけたらと思います。

あとは、日頃の健康法はありますでしょうか。

猪口先生> それが問題なんですね、まさに不健康法ですよね。昔から、身体を動かすスポーツが好きなので、そろそろちゃんと身体を動かしたいなと思っています。

西江先生> 問題は、時間の確保ですよね。続きまして、何か座右の銘がございましたら、お聞かせください。

猪口先生> 一つ挙げるとしたら、座右の銘にふさわしいかどうかですが、デカルトの「困難は分割せよ」ですね。

山のてっぺんを見るんじゃなくて、1つ1つ分割してコツコツやっていこうと思っていますね。

西江先生> わかりました。猪口先生が以前分割して成し遂げられたエピソード等があれば、教えてください。

猪口先生> 成し遂げたというより、この「困難は分割せよ」は高校の時に父親から言われた言葉なんです。高校に入ってすぐの試験がすごく酷い成績だったんで、これはなんとかしないといかんとなった時に、父から「コツコツと1個ずつやっていけ」という意味で言われました。その言葉のおかげで、医学部にも合格することができましたし、そういう意味ではなんとかなったんじゃないかなと思います。

西江先生> そんな感じで教育をされているお父様であったわけですね。

猪口先生> 父親も医師なんですが、元々文系が得意な人でいろいろ本を書きたかったような方ですね。

西江先生> 最後に、沖縄県医師会に対して、ご意見・ご要望がありましたら、お聞かせください。



猪口先生> 実は、九州大学の時は医師会の活動にほとんど関わっていなかったのですが、沖縄に来て立場が変わるとやっぱり医師会や行政に色々とコミットしていかなければいけない、そうしていかないと何もできない分野があるなと思っています。前立腺がんで言うと、やはり沖縄県の検診率が全然広がっていないという問題があり、これは我々がいくら言っても多分進まないので、問題に対してしっかりと行政にいろいろ働きかけをしながら、新しい体制を創っていくのが大事なのかなとつくづく思っています。

ぜひそういうところに入りていきたいなと思っています。

西江先生> 私も県医師会広報委員を2年ぐらいやっているのですが、医師会等の会議では視点も少し違ったり、ちゃんと多方面をみないといけないと感じることがありますので、すごく勉強になっています。何かできることがあれば、一緒にやっていきたいと思っています。

本日はお忙しい中ありがとうございました。今後ともぜひよろしくお願ひします。

猪口先生> こちらこそありがとうございました。

インタビューアー：広報委員 西江 昭弘



PROFILE

【略歴】

- 1997年 広島大学医学部医学科 卒業
- 1997年 九州厚生年金病院・臨床研修医
- 1998年 九州大学医学部附属病院・医員（研修医）
- 1999年 原三信病院・泌尿器科・医師
- 2000年 九州大学医学系学府・臓器機能医学専攻入学
- 2004年 同 卒業
- 2004年 九州大学病院・泌尿器科・医員
- 2006年 University of California, Irvine Medical Center
- 2008年 九州大学大学院医学研究院
泌尿器科学分野・助教
- 2009年 九州大学病院泌尿器科・助教
- 2013年 九州大学病院・泌尿器・前立腺・腎臓・
副腎外科 講師
- 2017年 同 診療准教授
- 2020年 九州大学大学院
医学研究院泌尿器科学分野 准教授
- 2024年 琉球大学大学院医学研究科
腎泌尿器外科学講座 教授
- 現在に至る

【指導医・認定医等】

- 日本泌尿器科学会専門医・指導医
- 日本内視鏡外科学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
- 泌尿器腹腔鏡技術認定医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- 泌尿器ロボット支援手術プロクター認定医（膀胱・
前立腺・副腎・腎（尿管））